

平成18年度経済学部
第3年次編入学（昼間コース）・転部
試験問題

【科目】 専門科目〔経済学基礎（マクロ経済学分野，ミクロ経済学分野，マルクス経済学分野），経営学基礎，会計学基礎〕

【時間】 60分

- 【注意】
- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開かないください。
 - 2 この問題冊子には、経済学基礎（マクロ経済学分野，ミクロ経済学分野，マルクス経済学分野），経営学基礎，会計学基礎の問題が綴っております。（落丁・乱丁・印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は、監督者に申し出てください。）
 - 3 解答は、出願時に届け出た1科目及び1分野を解答してください。
出願時に届け出た科目及び分野以外の問題を解答した場合は、解答を無効とします。
 - 4 解答用紙の指定箇所に、出願時に届け出た科目及び分野とその問題記号，受験番号を記入してください。
 - 5 問題の解答は、解答用紙に記入してください。
解答用紙が不足する場合は、追加の解答用紙を配付しますので、手を挙げて申し出てください。
 - 6 下書用紙に解答を記入しても無効です。
 - 7 試験終了後、この問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

平成 18 年度 経済学部
第 3 年次編入学 (昼間コース)・転部
試験 問 題

専 門 科 目
「 経 済 学 基 礎 」
(マクロ経済学分野)

【問題記号：A1】

産業連関表 (単位:兆円)

産出 投入	農業	工業	最終需要		産出合計
			国内需要	純輸出	
農業	15	90	30	-15	120
工業	30	810	450	60	1350
付加 価値	賃金 利潤	60 15	300 150		
投入合計	120	1350			

1 上記の産業連関表は、農業と工業の 2 部門からなる経済が示されている。この国の国内総生産を求めよ。

以下の問題 2、3、4 の内 2 問を選択し答えよ。選択した問題の番号を解答の直前に明記すること。

2 閉鎖経済モデルを以下のように表されるとしよう。(単位:兆円)

$$Y = C + I + G$$

$G = 100, T = 100, C = 25 + 0.75(Y - T), I = 100 - 5r$, Y は問題 1 で求めた国内総生産とする。この経済における民間貯蓄、公的貯蓄、均衡利子率を求めよ。

3 ある閉鎖経済で、投資関数、消費関数と貨幣需要関数をそれぞれ以下のように与えられているとする。(単位:兆円)

$$I = 100 - 5r + 0.4Y \quad (1)$$

$$C = 25 + 0.75(Y - T) \quad (2)$$

$$L = 0.8Y - 10r \quad (3)$$

$$L = \frac{M}{P} \quad (4)$$

Y :所得、 I :投資、 T :税、 C :消費、 L :貨幣需要、 M :貨幣供給、 r :利子率、 P :物価水準、限界租税性向は $\frac{1}{3}$ 、政府支出が 100、名目貨幣供給を 20 とする。

完全雇用 GDP を問題 1 で求めた数字とし、当初物価水準が 1 であったとし、財政政策および金融政策には変更はないものとする。物価と GDP は完全雇用 GDP と比較するとどのくらい変化するかを示せ。ただし、物価は下方硬直性が存在するとする。

4 上記の問題 3 の設定のもとで税制のみを定額税に変え、政府が増税の方法で政府支出 G を 1 兆円増加するとき、問題 1 で求めた GDP はどのように変化するかを求めよ。

平成18年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)・転部
試験 問

専門科目
「経済学基礎」
(ミクロ経済学分野)

【問題記号：A2】

下記の間全ての解答せよ。

[I] 完全競争市場において、ある財の需要関数が $D = -P + 120$ であり、供給関数が $S = 2P - 60$ であるとする (D : 財の需要量, S : 財の供給量, P : 財の価格)。

- (1) 需要曲線と供給曲線のグラフを描き、市場均衡価格と市場均衡数量を求めよ。
- (2) 市場均衡における消費者余剰と生産者余剰の値を計算せよ。
- (3) 需要の価格弾力性とは何か、説明せよ。また市場均衡における需要の価格弾力性を求めよ。
- (4) 需要関数が $D = -2P + 180$ に変化したとする。需要曲線と供給曲線のグラフを描き、市場均衡価格と市場均衡数量を求めよ。また市場均衡における消費者余剰と生産者余剰の値を計算せよ。
- (5) (4) の需要関数の下で、市場均衡における需要の価格弾力性を求めよ。
- (6) 完全競争市場ではなく、独占市場のケースを考える。独占企業が需要関数 $D = -P + 120$ に直面しており、限界費用関数が $MC = \frac{S}{2} + 30$ であるとする。
独占価格と独占供給量を求めよ。
- (7) (6) の独占市場のケースの消費者余剰と生産者余剰の値を計算せよ。
またこの独占によって生じる厚生損失(総余剰の減少分)の値を計算せよ。

[II] ギッフェン財とは何か、定義を述べよ。また代替効果と所得効果という言葉をも簡潔に説明した上で、ギッフェン財が生じる理由を説明せよ。

平成18年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)・転部
試験問題

専門科目
「経済学基礎」
(マルクス経済学分野)

【問題記号：A3】

次の「I～V」の問題から一つ選択して答えなさい。なお、選択した問題番号を記してから解答すること。

「I」資本の原始的蓄積(本源的蓄積)とは何かを、それが資本主義経済の成立に有した意義と関連づけて説明しなさい。

「II」19世紀半ばにイギリスでは自由貿易主義が確立されるが、最初の資本主義経済国のイギリスで自由貿易主義が支配的になる根拠、背景を説明しなさい。

「III」資本の生産過程に即して、固定資本、流動資本を説明しなさい。

「IV」商業資本の利潤の源泉はどこに求められるかを、資本主義経済の原理から説明しなさい。

「V」1970年代末の「開放・改革」政策の開始以降中国経済は現在まで高成長を続けているが、高経済成長の持続を可能にする経済的諸条件を説明しなさい。また、高経済成長の一方で、中国は様々な経済、社会的諸問題にも直面しているが、こうした諸問題の一つか二つを具体的に取り上げ、それについてのあなたの考えも記しなさい。

平成18年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)・転部
試験 問

専門科目
「経営学基礎」

【問題記号:B】

次の6問の中から2問を選択して答えなさい。なお、必ず、選択した問題番号を明記してから解答すること。また、3問以上に解答した場合、答案は無効となるので注意すること。

- (1) 企業ドメインの意義について説明しなさい。
- (2) 株式会社制度の特徴について説明しなさい。
- (3) 事業部制組織について説明しなさい。
- (4) 「パラダイム」という考え方について説明しなさい。
- (5) マネジメントとリーダーシップの違いについて説明しなさい。
- (6) 企業のステークホルダーについて説明しなさい。

平成18年度経済学部
第3年次編入学(昼間コース)-転部
試験 問 題

専 門 科 目
「会計学基礎」

【問題記号:C】

財務会計領域と管理会計領域のうち1領域を選択し、設問にこたえなさい。

財務会計領域(2問とも解答のこと)

- [I] 損益計算の基本原則について、(1)費用・収益の認識基準、(2)費用・収益の測定基準、(3)費用収益の対応の原則から内容を説明しなさい。
- [II] 財務諸表の公開について、(1)法定された公開財務諸表の種類、(2)証券取引法・商法で強制された財務諸表のディスクロージャーの内容を説明しなさい。

管理会計領域

A 社では、製品1と製品2を生産している。製造間接費の配賦について、下記の資料に基づき、(1)総括配賦率を用いた場合、(2)部門別配賦率を用いた場合、(3)ABC(活動基準原価計算)を用いた場合のそれぞれの各製品単位原価を求めなさい。解答にあたっては計算過程を示すこと。なお、総括配賦率の計算では、配賦基準として直接作業時間を用いる。

〔資料〕

	製品1	製品2
製品単位当たり:		
直接材料費	140 円/個	140 円/個
直接労務費		
機械部門	100 円/個 (1,000 円/時×6 分(0.1 時間))	100 円/個 (1,000 円/時×6 分(0.1 時間))
組立部門	100 円/個 (1,000 円/時×6 分(0.1 時間))	100 円/個 (1,000 円/時×6 分(0.1 時間))
機械部門の機械時間	6 分/個	12 分/個
年間生産・販売量	300 個	50 個
製造間接費		
機械部門	70,000 円	
組立部門	35,000 円	
計	105,000 円	

アクティビティ	コストプール	製品1	製品2
機械の段取り	5,400 円	1 回	5 回
エンジニアリング・設計	31,500 円	5 時間	30 時間
材料取扱	9,600 円	1,500kg	500kg
品質管理	13,500 円	3 回	6 回
機械関連コスト	45,000 円	300 時間	150 時間
計	105,000 円		